中国新聞 2022年6月19日 日曜日 面名 広島都市圏 地方 25ページ

被爆遺構「実態伝える」

中区 展示館の意義 講演で強調

広島市が3月、平和記念公園（中区）にオープンした被爆遺構展示館の意義や課題を考える講演会が18日、原爆資料館（同）であった。県立広島大の鈴木康之教授（考古学）が講演し「写真や文字だけでは伝わらない被爆の実態を伝える役割がある」と強調した。

展示館は、原爆で壊滅した旧中島地区の民家跡を発掘し、建屋で覆って展示している。展示に関する市の有識者懇談会で委員を務めた鈴木教授は、地中の被爆遺構を発掘・保存した初の事例と評価。「発掘した遺跡の劣化は止められない。いかに劣化を遅らせ、歴史遺産としての価値を将来に継承するかが今後の重要な課題だ」と指摘した。

講演は市民団体「広島平和記念公園被爆遺構の保存を促進する会」が総会を兼ねて開き、約40人が参加した。同会はこの日、展示館のオープンで役割を終えたとして解散を決めた。

（明知隼二）

被爆遺構展示館の意義を説く鈴木教授

(C) 中国新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。